

一般社団法人
さいたまスポーツコミッション (SSC)

中期事業計画書
2024年度 - 2028年度

中期事業戦略

INDEX

- I 法人設立からのロードマップ
- II さいたまスポーツコミッションが目指す好循環モデル
- III 長期成長イメージ
- IV 各事業の位置づけと目指す方向性
- V 各事業の概要・方向性
 - 1 スポーツコミッション推進事業
 - 2 スポーツシューレ事業
 - 3 クリテリウム等開催事業
- VI 2024年度～2028年度 収支概算

I 法人設立からのロードマップ

Step.1 2019年度 - 2021年度 → Step.2 2022年度 - 2023年度 → Step.3 2024年度 - 2028年度

黎明期

(3年構想)

既存事業の見直し、
新規事業の構築

法人の成長に向けて、既存事業の見直しと新規事業の構築を行う。そのために必要な集中的なマーケティングリサーチを実施する。

コロナ禍の3年間
(2020 - 2022年度)

成長期

(5年構想)

スポーツブランディングの
推進と収益性の向上

スポーツイベント誘致支援事業の戦略化と合宿誘致支援事業の拡大化を実施し、スポーツブランディングを推進。新事業を展開し、法人の収益性を向上させる。

充実期・
躍動期

(10年構想)

スポーツ界全体の好循環モデル
の実現に向けて

[Step.2] の取組を継続・進化させながら、スポーツ界全体の好循環モデルを実現を目指す。また、日本・世界における成功のモデルケースに。

ネクスト
ステップ

VISION

スポーツ先進都市の実現

【これまで】

設立当初、法人化することで、機能・体制の強化を図り、新事業を展開。行政と連携し、スポーツ界全体の好循環モデルの実現を目指してきた。

2020年から約3年続いたコロナ禍や社会情勢の変化によりスポーツ業界全体が大きな影響を受けることとなり、その中でもこの5年間で多くの事業を経験し、**十分な収益性の向上にいたることはできない**中でも**新規事業創出やスポーツブランディングの推進については一定の成果**をあげてきた

【中期戦略】

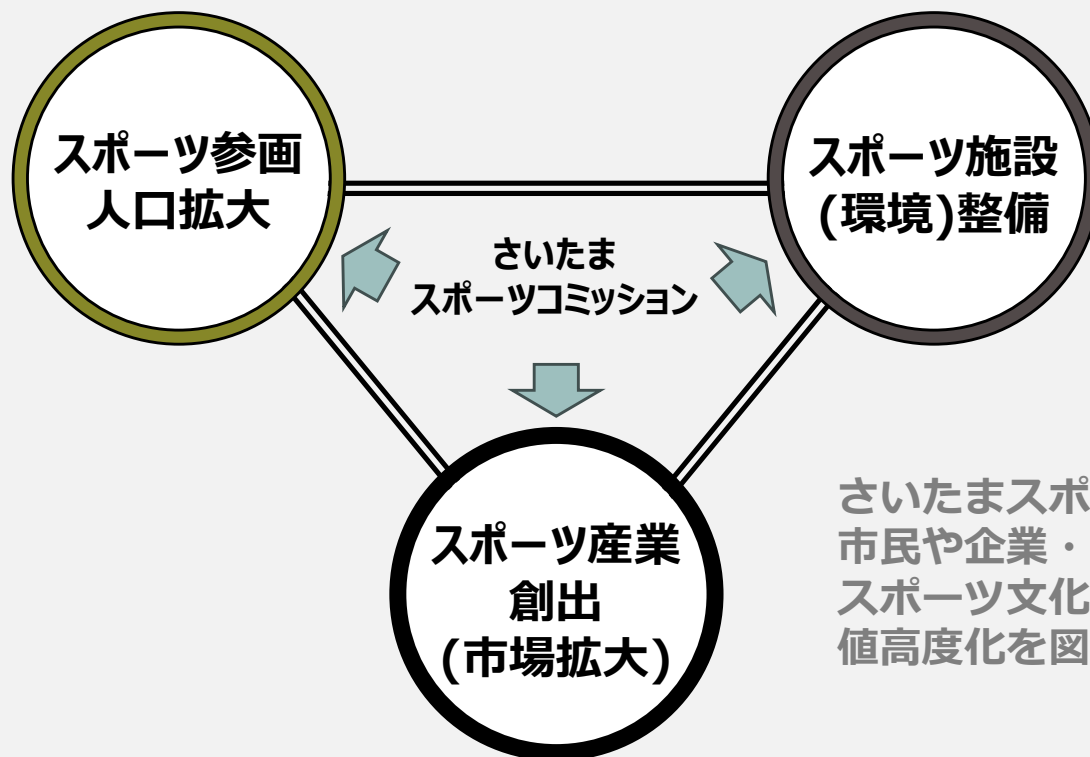
当期間では、10年間のロードマップのさらに先を見据えて、当コミッションのビジョンの実現に向けた戦略のもとで事業を展開していく。本中期戦略は、スポーツ政策の推進エンジンとして公益事業の推進を加速するとともに、**既存事業の高付加価値化と、新事業の成長によりさらなる経営基盤の強化を目指す**重要な位置づけの期間となる

【ビジョン実現に向けて】

「国際性」「先進性」「持続性」を備え、他都市に先駆けた「スポーツフロンティア」を創出し、スポーツで地域を活性化する推進エンジンとして、さいたま市とともに**スポーツ先進都市の実現を目指していく『持続可能な組織』**となる
(2031年度目標)

Ⅱ さいたまスポーツコミッションが目指す好循環モデル

「3つの効果」を図るための事業を展開し、地域スポーツ全体の活性化と持続可能な成長を実現。



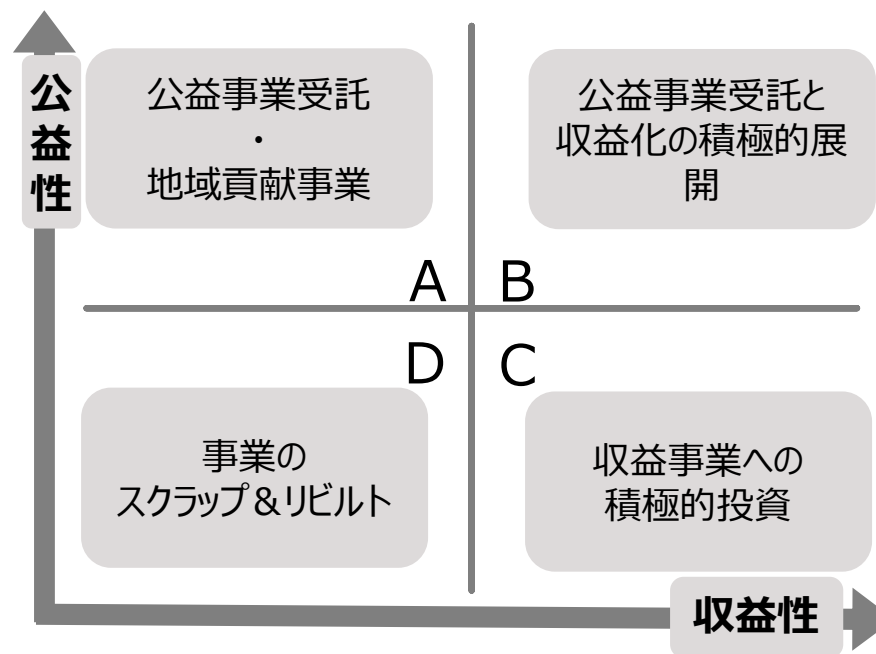
さいたまスポーツコミッションは、スポーツの場において市民や企業・団体等とともに、その多様な知見を活かし、スポーツ文化の発展、スポーツの投資促進やスポーツの価値高度化を図る好循環モデルの推進役となる

Ⅲ 成長イメージ

□ 成長のための事業展開

スポーツブランディングの推進と収益性の向上、更には、スポーツ界全体の好循環モデルを構築するために、事業の収益性を向上させ、法人を安定的に運営しつつ、事業の公益性にも着目して積極的な事業展開を行う

公益性の高い事業(A・B)	市のスポーツ政策を支える・広げる団体として、公益事業を積極的に担うとともに、公益性を踏まえながら、収益性の向上も図る
収益性の高い事業(B・C)	一般社団法人のメリットを生かして、企業等との連携を図りながら、収益事業への積極的な投資を行う
公益・収益性の低い事業(D)	事業の再構築及び廃止を含めた抜本的な見直しを図る



公益性の高い事業については公益的指標（経済効果・交流人口等）の向上を目指す一方、収益事業への積極的投資により収益性向上を図り、事業活動に係る公的支援を最大限縮減していく。

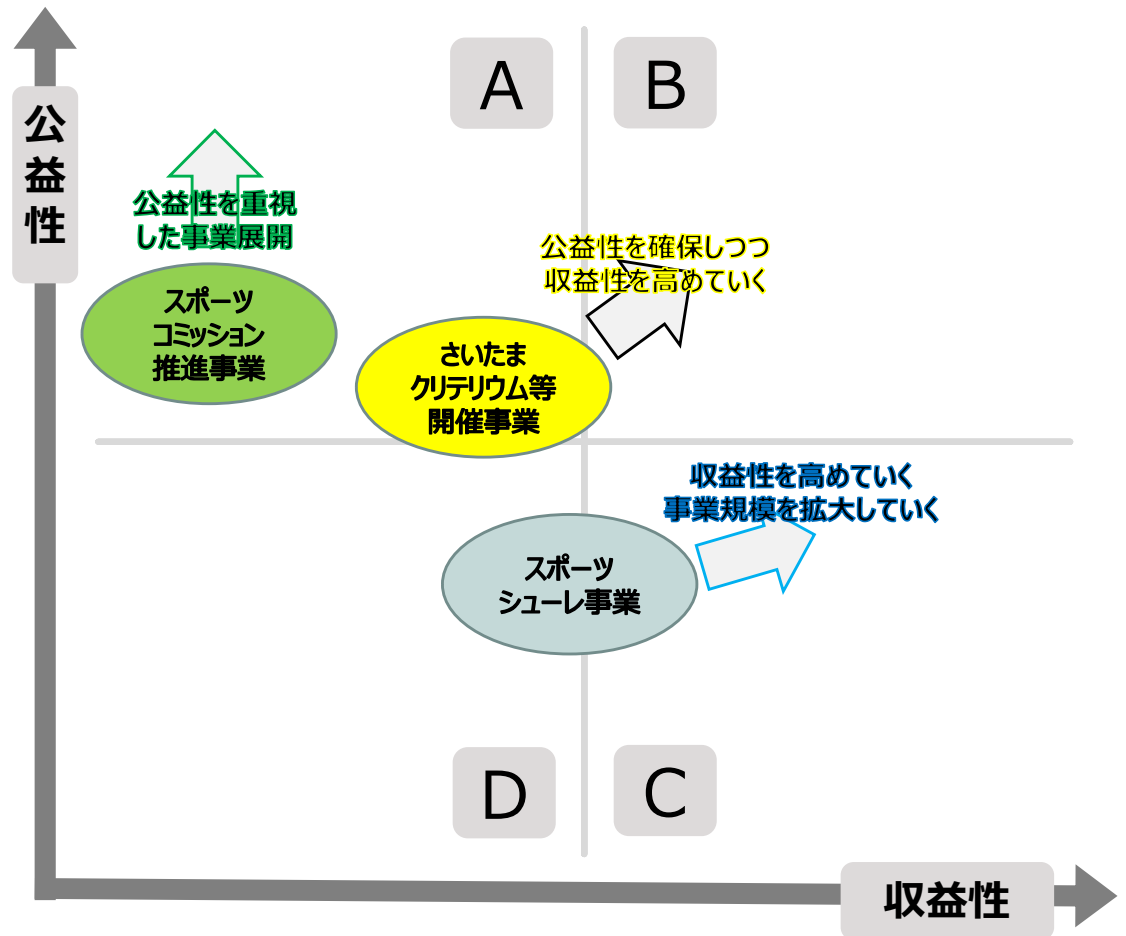
SSCの強みと特色を生かし、市の公益的なスポーツ施策の担い手としての役割をしっかりと果たすとともに、さいたま市の豊富なスポーツ資源を最大限に活用した新たな好循環モデルの創出を目指す。

IV 各事業の位置付けと目指す方向性

□ 公益性と収益性の分類

スポーツコミッションの各事業を、収益性、公益性の2軸で分類し、中期事業計画における位置づけと目指す方向性を明確にする

A	公益性 高	助成金等支援を受けて実施する事業 スポーツ振興や地域活性化などに資する、市民の参画や交流人口拡大、経済効果等の公益性の指標をKPIに掲げて事業を実施する領域。
B	公益性 高 収益性 高	公益団体等からの受託等事業 公益性が高い事業であるが、独自に協賛を募ることやMD等で収益も確保できる可能性のあることから、公益性の指標の他に、収益性の指標もKPIに掲げて事業を実施する領域。
C	収益性 高	自主事業、企業等との受託・連携事業 収益性を柱にKPIに掲げて事業を実施する領域。
スポーツコミッション推進事業		スポーツイベント誘致支援・開催助成、ウォーキングイベント（さいたまーチ）
スポーツシュレ事業		バスケットボール・女子サッカー・アーバンスポーツ・テニス等活性化、スポーツ施設運営、アフタースクール、地域版SOIP
さいたまクリテリウム等開催事業		さいたまクリテリウム開催、さいたまマラソン開催



1. スポーツコミッション推進事業

2011年のスポーツコミッション発足以来の事業。これまでの実績を生かし、公益性を重視した事業展開を行い、さいたま市のスポーツ振興や地域活性化に係る施策の重要な役割を果たしていく

スポーツイベント誘致支援・開催助成

現状	2011年から2022年度までに424件のイベント・大会の誘致支援の実績をもち、累計経済効果は485億円となる
方向性	コロナ禍で多くのイベントや大会が中止や縮小を余儀なくされてきたが、2023年度は徐々に再開の兆しをみせつつあり、今後は経済効果や交流人口をより意識した新たな誘致支援施策を行い、公益性の推進を目指す

ウォーキングイベント(さいたまマーチ)

現状	2012年から2023年度にかけて全12回の開催実績をもつウォーキングイベントで、コロナ禍においては中止も余儀なくされたが、オンラインウォーキングなど、持続可能な新たなウォーキングイベントの在り方として継続してきた子どもから高齢者まで気軽に参加できる大会であり、2022年度には日本ウォーキング協会の認定をとり、全国の限られたウォーキングイベントとしてブランディングの推進を進めた
方向性	イベントの価値や認知度を向上させるとともに、企業協賛の働きかけなどの事業拡大策を実施して、参加者の増加及び収益性向上を目指す

KPI

誘致支援・開催助成

- 経済効果
- 交流人口

ウォーキングイベント

- 参加者数
- 事業収入
- 協賛企業数

事業規模

2024年度
• 88百万円



2028年度
• 67百万円



2031年度
• 経済効果・交流人口の増加

目指す方向性

2. スポーツシュール事業

さいたまスポーツコミッションの高付加価値ビジネスの創出により、持続可能な組織を実現するための重要な役割を果たしていく



女子サッカー・バスケットボール・アーバンスポーツ・テニス等活性化	
現状	「もっとさいたまにスポーツを。」のメッセージのもと、サッカーをはじめ様々なスポーツの成長を支える環境を構築
方向性	参加者や協賛企業拡大など、収益性の拡大を図りつつ、スポーツの成長促進を目指す
スポーツ施設運営	
現状	大宮けんぼグラウンドsフィールドの運営、大宮武道館、与野体育館、エリアマネジメントを含むさいたま新都心公園の指定管理を開始
方向性	新たなスポーツ施設の管理運営、自主興行の開催など、SSCが持続可能な組織となるための基盤としていく
アフタースクール	
現状・方向性	経済産業省の未来の教室、市教育委員会との部活動改革で得た知見を生かし、スポーツアフタースクールの新たな仕組みを構築し、新たなスクール産業の創出を目指す
地域版SOIP	
現状・方向性	令和5年度のスポーツ庁地域版SOIP事業では、レッズレディース、アルディージャVENTUS、ブロンコス、さいたまマラソンと企業と共創する地域パートナーとしてオープンイノベーションを促進。今後はSSCが主体となるSOIPの仕組みを構築し、スポーツの価値高度化を目指す



3. クリテリウム等開催事業

さいたま市と共催の市民向け大規模イベント。公益性が高い事業であるが、収益性も高めつつ持続可能な事業を目指していく



さいたまクリテリウム開催	
現状	ユーロ高・人件費・資材費等の高騰も重なり、国際的なスポーツイベントを取り巻く環境の変化により厳しい状況が続く
方向性	2024年度10回記念大会を機にあらたな事業基盤を確立し、多角的に収益事業の確保を目指す
さいたまマラソン開催	
現状	2023年度に「誰もがスポーツを楽しみ、誰もが参加できる東日本屈指のマラソンの祭典」をコンセプトに、市民マラソンとして「さいたまマラソン」を開催した
方向性	持続可能な大会を目指すため、参加者の満足度向上や参加者のコミュニティづくりを通じて、地域の活性化を図るとともに、協賛企業の拡大を目指す



VI 2024年度～2028年度 収支概算

経常収益

細目	2024	2025	2026	2027	2028
スポーツコミッション推進事業費	88	67	67	67	67
スポーツシューレ事業費	92	132	144	155	166
クリテリウム等開催事業費	911	928	933	938	943
事業会計	1,092	1,126	1,143	1,159	1,175
法人会計	109	101	93	85	77
総計	1,201	1,227	1,236	1,244	1,252

経常支出

単位：百万円

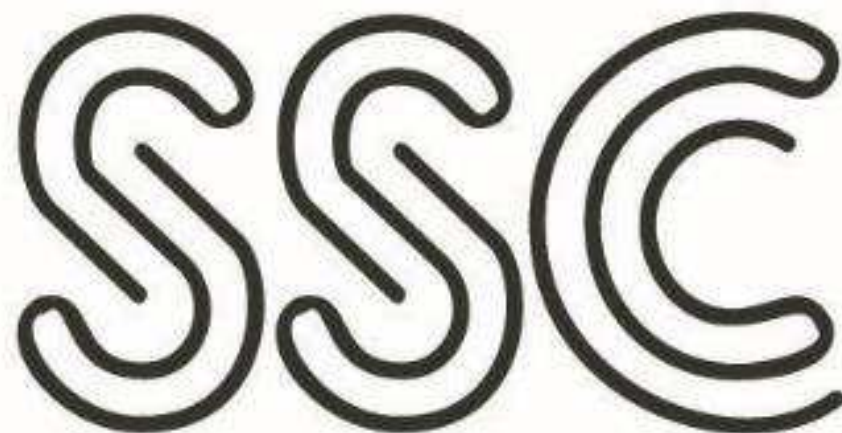
2024	2025	2026	2027	2028
88	67	67	67	67
77	108	114	116	122
883	895	897	899	900
1,048	1,069	1,077	1,081	1,088
133	132	133	133	133
1,181	1,201	1,210	1,214	1,221

経常収支

細目	2024	2025	2026	2027	2028
スポーツコミッション推進事業費	0	0	0	0	0
スポーツシューレ事業費	16	25	30	39	44
クリテリウム等開催事業費	28	33	36	39	43
事業会計総計	43	58	66	78	87
法人会計総計	△ 24	△ 31	△ 40	△ 48	△ 56
総計	20	26	26	30	31

- ・この収支概算は、2024年予算をベースとして、各事業がこの事業計画どおりに継続した場合を想定したものの。
- ・今後、社会情勢の変化等により、収益・支出の変動、事業の改廃等も考えられるが、法人全体の収支の確保に努める。

もっとうたがまにスポーツを。



Saitama Sport Commission